



編集・発行  
日蓮宗 能勢妙見山  
広報部  
〒563-0132  
大阪府豊能郡能勢町野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

# 国祷会・お火焚祭り

2月11日(祝)は国祷会が催されます  
世情不安定な今、世界全体の平和と豊穡を祈ります  
続いて大駐車場でお火焚祭りが執り行われます

## 〔2月の行事予定〕

☆節分会星祭 3日(火)節分当日から翌立春

一年間の善星皆来・悪星退散を祈ります

☆国祷会 11日(祝)10時開運殿にて法要

お火焚祭り 同日 10時45分大駐車場

旧年のお札等や祈願矢を火に投じて祈ります  
祈願矢申し込みの方には大根炊き引換券あり

★清掃の日 15日(日)11時〜12時

★月例祈願法要 15日(日)13時

妙見様のご縁日祈願法要 開運殿にて厳修

★鷗様月例祭 22日(日)15時

●2月の写経会は取りやめます

## 〔3月の行事予定〕

☆報恩大祈禱会 1日(日)11時 水行・特別祈禱

12時半から大駐車場にて車両交通安全祈禱

★写経会 8日(日)11時

★清掃の日 15日(日)11時〜12時

★月例祈願法要 15日(日)13時

☆彼岸会法要 22日(日)13時

★鷗様月例祭 22日(日)15時

◎ご祈禱・ご回向等のお申込はFAX・メールでも  
受け付けています

○送迎バス 奉賛会会員ご信者様の便宜を図り、  
能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意  
ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡願  
います。但しご希望に添えないこともあります

## 柊イワシ

新實信導

節分といえば、豆まきと恵方巻が頭に浮かぶが、実は「柊イワシ」という魔除けがある。

節分の日にはイワシの頭を焼いて、柊（ひいらぎ）の枝に刺し、家の玄関に挿すという古くから魔除けとして用いられてきた風習である。柊の鋭いトゲとイワシの強い臭気が「邪気」を寄せつけないと考えられ、家庭の安全と招福を願うために飾られた。この風習は柊の枝にボラの頭を飾った平安時代の風習が起源とされ、いつの間にかボラからイワシに変わったという。

また、西日本の一部の地域では、柊イワシを飾った後、その日のうちにイワシを食べる習慣があり、イワシにはDHAやEPA、カルシウム等を豊富に含んでおり栄養価が高いことから

イワシを食べ無病息災を願う意味がこめられている。

ところで、「イワシの頭も信心から」ということわざがある。このことわざの由来は、柊イワシを飾る風習からきており「イワシの頭」は「つまらないもの」の意で「信心から」は「信じ方次第」という個人の信条のことを指している。つまり「イワシの頭のようにつまらないものでも、邪気払いのためと信じて行えばイワシの頭も尊いものになる」ということが語源とされる。何事においても、信じ方次第では素晴らしい方向へ動くものであるが、他人にとってはとるに足らないものでもある。とらえ方次第では、他人を揶揄する言葉となりうることもあるので、注意が必要である。

法華経の勸持品第十三には「悪鬼入其心」とあり、「悪鬼その身に入る」という意味である。この世に目を向

けると、窃盗や殺人といった凶悪な事件、イジメなど人の道にはずれた行為があとを絶たない。これこそが悪鬼が身体に入り、心が惑わされ、過ちを起こしている姿かもしれない。悪鬼を防ぐ手立てこそが、まさに法華経・御題目を唱えることなのである。節分には豆をまき、豆（魔滅）で邪気を払い、今年一年の福を是非呼び寄せていただきたいものである。

## 報恩大祈禱会

3月1日は、昨年11月1日から今年2月10日まで日蓮宗大荒行堂にて壹百日間の荒行を成満された荒行僧を迎えて、報恩大祈禱会を厳修します。水行で身を清めたのち北辰閣2階ご宝前にて希望者に特別祈禱。そののち大駐車場直接車両への修法加持にて車両交通安全特別祈禱を修します。

## 《法華経に学ぶ現代》

純智庵

## 此の功德の

## 利を聞いて

## 我が滅度の後に

## 斯の経を

## 受持すべし

『如来神力品第二十一』

分かつてくれよと

口説いてみても

とかく子供という奴は

親の言うこと聞きはせぬ

それはそれとして

仕方はないが

せめて私が死んだ後

子供の頃をふり返り

云われた言葉を思い出し

懐かしがつてくれるなら

それも功德というものだ

## 仏教まめ知識

末法（まっぽう）

仏教では、釈尊の滅後、仏法の衰退とともに世の中も荒廃していくとし、正しい教えが未だ実践されている正法時・像ばかりは残っている像法時・教えの衰退する末法時の三時を説く。平安末期に末法思想が広がり、鎌倉仏教は共通して末法の危機をいかに克服するかを宗教的課題とした。当時、自然災害が人々を襲い、飢饉や戦乱をどう乗り越えていくか、危機意識が蔓延していたのである。

近年の世界各地の紛争や自然災害を目にして「末法」という言葉が想起される。

宗祖日蓮聖人は末法濁世の救いは、釈尊が末法の時代に生きる今の私たちのために留め置かれた南無妙法蓮華経の題目信仰によるほかはないと説いた。目の前の繁栄や衰退に惑わされることない正しい目で先行きを見つめたい。